

国語科『現代の国語』シラバス

北海道常呂高等学校

学年	1	単位数	2	授業形態	一斉			
教科書 (出版社)	新 現代の国語 (三省堂)		副教材等 (出版社)	新現代の国語 学習課題ノート(三省堂) 書いて覚える 漢字練習ノート 二訂版 (啓隆社) ビジュアルカラー国語便覧 改訂版 (大修館書店) 「論理の力」を育てるシリーズ 1日10分言語力ドリル入門「読む・書く」(第一学習社)				
学習目標	<p>○実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。</p> <p>○論理的に考える力や深く共感したり想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。</p> <p>○言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身に付ける。</p>							
学習方法	<p>○(知識等の)吸収→思考→表現のサイクルを毎時間、毎単元で意識する。</p> <p>○目の前の物事に興味を持ち、「なぜ？」と疑問を持つ。</p> <p>○授業時間毎・単元毎の目標を理解し、そこに到達するための見通しをもつ。</p> <p>○自分の理解度を客観的に評価し、予習や復習などを自主的に行う。</p>							
学習評価	評価の観点	評価の観点の趣旨						
	ア 知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。						
	イ 思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。						
	ウ 主体的に学習に取り組む態度	上記ア、イの力を身に付けるにあたって、粘り強く取り組み、自らの学習を調整している。(全単元この趣旨に沿って評価するため、下記「評価規準」の記載は省略)						
	評価方法	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	観点	実力考查	単元考查	小テスト	発表・発言	提出物の内容等	宿題の内容等	作品制作
	ア 知識・技能	○	○	○	○	○	○	○
	イ 思考・判断・表現	○	○		○	○	○	○
	ウ 主体的に学習に取り組む態度				○	○	○	○

学習計画 (「単元」末尾の括弧内は指導領域と予定授業時数)

学期	編・章	単元【観点】	学習内容(教材)	評価の観点			評価規準	評価方法
				ア	イ	ウ		
前期中間	1	○内容や構成、論理の展開を捉え、文章の要旨を把握したり情報を関連づけて考えたりしよう【読む(5)】	・情報を要約する(「届く言葉、届かない言葉」 鷲田清一) ・情報を関連づけてまとめる(「わかりあえないことから」 平田オリザ、「聞く力」 阿川佐和子)	○	○	○	・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。	②～⑥
	2	○情報を適切に編集し、自分の考えを発表しよう【話す・聞く(8)】	・情報と適切につきあう(「ひとまず、信じない」 押井守) ・情報を適切に編集する(情報を編集し、的確に発表する—パブリックスピーチ)	○	○	○	・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うことができる。 ・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うことができる。 ・自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫することができる。	④～⑥
前期期末	3	○情報を収集・整理して報告書を書こう【書く(11)】	・情報を集めて選ぶ(「人が死なない防災」 片田敏孝) ・情報を整理する(「減災学を作る」 矢守克也) ・情報を作りかえる(評価した情報をまとめる—報告書)	○	○	○	・言葉には認識や思考を支える働きがあることや、主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 ・目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている。	④～⑦

前期期末	4 よりよい読み手になるために	○文章の内容や形式、論理の展開を分析して評価しよう【読む(5)】	・説明の方法を理解する(「水の東西」山崎正和) ・さまざまな視点から情報を捉える(「コインは円形か」佐藤信夫)	○	○	・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解している。 ○ ○ ・個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。 ○ ○ ・目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。	①～⑥
	5 場に応じて伝えるために	○相手に応じて構成や展開を工夫し、根拠を明確にして自分の考えを伝えよう【話す・聞く(9)】	・根拠を明確にして考えを伝える(「中身当てクイズ」佐藤雅彦) ・相手を意識して自分の考えを伝える(構成や展開を意識して発表する——プレゼンテーション)	○	○	・話し言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うことができる。 ○ ○ ・語句や語彙の構造や特色、用法などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ○ ○ ・話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫することができる。 ○ ○ ・論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	④～⑥
後期中間	6 説得力を高めるために	○説得力を高めるために引用の目的や効果的な説明の仕方を考えよう【書く(12)】	・引用の目的やはたらきを理解する(「折々のことば」鷲田清一) ・説明の仕方を考える(「宝探しみたいに本の世界へ入っていきます」芦田愛菜) ・情報を活用する(情報を整理して推薦する——ブックトーク原稿)	○	○	・文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方、引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解し使うことができる。 ○ ○ ・実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めている。 ○ ○ ・読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫することができる。 ○ ○ ・自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫することができる。	④～⑦
	7 考えを共有していくために	○本文や資料の情報を元に自分の考えをまとめ、パネルディスカッションをしよう【話す・聞く(8)】	・ある事実をもとに未知の事柄を推し量る(「檻の中の“街”」安田菜津紀) ・情報を関係づけてまとめる(「小さな哲学者」中村安希) ・伝えることの意味や方法を理解する(多様な意見に触れる——パネルディスカッション)	○	○	・比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方、推論の仕方、引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解し使うことができる。 ○ ○ ・論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 ○ ○ ・論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫することができる。	④～⑥
後期期末	8 よりよい書き手になるために	○事例と主張の関係を意識しながら文を書こう【書く(12)】	・事例と主張の関係を整理する(「ありのままの世界は見えない」田中真知、「ものごとことば」鈴木孝夫) ・自分なりの考えをまとめる(情報を活用して説得的に書く——小論文) ・意図が十分に伝わる書き方を探る(書いた文章を批評し合う——推敲)	○	○	・文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方、推論の仕方について理解することができる。 ○ ○ ・目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすることができる。 ○ ○ ・目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすることができる。	①～⑥

指導領域毎の時数

指導領域	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	
授業時数の計	25時間	35時間	10時間	計70時間